

在家仏教講演会 開催ご案内

東京 時間：午前10時～11時30分
会場：中野サンプラザ7階研修室10（中野区中野4-1-1）
清風クラブ2階研修室（渋谷区上原3-32-6）
会場整理費：700円 問合せ：03-3465-0671

7月・8月は休会、9月23日（土）は祭日のため休会

9月9日（土）「なぜ生まれ、老い、死ぬのか」 [中野サンプラザ]
田上太秀 先生 駒澤大学名誉教授

10月14日（土） 演題未定 [清風クラブ]
黒川文子 先生 東方学院講師

10月28日（土） この世とあの世 [中野サンプラザ]
本多弘之 先生 親鸞仏教センター所長

11月10日（金）※ この世とあの世 [中野サンプラザ]
南直哉 先生 曹洞宗霊泉寺住職
※第2金曜日の平日開催となりますのでご注意ください

大阪 第3金曜日 午後3時～4時30分
会場：堂島アバンザ5階または14階（北区堂島1-6-20）
会場整理費：500円 問合せ：06-6346-7000

9月15日（金） 「大事と小事」
真城義麿 先生 真宗大谷派善照寺住職

11月17日（金） 「地獄を拜む思想—白隠禅師と法華経」
西村恵信 先生 花園大学名誉教授

名古屋 第3水曜日 午後1時30分～3時
会場：いちご丸の内ビル9階（中区丸の内3-17-13）
会場整理費：500円 問合せ：052-962-4181

9月20日（水） 演題未定
赤池憲昭 先生 愛知学院大学名誉教授

11月15日（水） 演題未定
林淳 先生 愛知学院大学教授

いのち尊し

釈尊の説法、虚言ならず

菅原伸郎

（在家仏教協会理事長）

第3号
いのち尊し
平成29年7月1日
一般社団法人
在家仏教協会
〒151-0064
東京都渋谷区
上原3-32-6
TEL
03-3465-0671
FAX
03-3465-0672

この六月、総会と理事会の決議を経て理事長の職をお引き受けしました。浅学非才の元新聞記者には重すぎる役割です。しかし、一九五二年発足の本協会はいま、試練の時を迎えています。お世話になつてきた人間として、この際、微力を尽すべきかと思ひました。仏教界や経済界、そして何よりも会員諸兄弟のいっそうのご支援、ご指導をお願いする次第です。

\*

この機会に本紙の二ページに載っている「在家仏教協会 四つの信条」を見つめ直しました。一九五四年の総会で加藤辨三郎・初代理事が掲げたものです。

まず「釈尊の説法虚言ならずと信じていること」とあります。仏教団体として当然のことですが、実はそう簡単ではありません。本物

の「釈尊の説法」とは何か、長い歴史の中で曖昧になつていくからです。インドから南へ北へ、伝わつた地域の習俗や俗信と混じり合い、儀式も経典もさまざまな形となりました。

多くのお経は「如是我聞」で始まります。「釈尊のお話を私ばかり伺つた」というのですが、どうでしょう。江戸時代に富永仲基（一七一五〜四六）は大乗非仏説を唱えています。近代仏教学でも、法華経や浄土経典が釈尊の発言そのものでないことは定説です。

キリスト教の「新約聖書」は青年イエスの言行を記した文書とされています。しかし、近年の研究によると、本当にイエスが語つたと言ひ切れる言葉は三つしかないとのこと。\*

このように、祖師たちの實際を確定することは難しい作業です。しかし、それでもなお、深い霧の向こうに釈尊の姿が浮かんでこないでしょうか。原始仏典や研究書を読んでいても、ほぼ似たような釈尊像が見えてきます。

おそらく、まずは普通の常識を大切にされた方だったでしょう。輪廻転生やアートマン（自我）を、実在と認めない。天変地異に驚いても、怪しい神やサタンを持ち出さない。分らないことは分からず、そのままにしておく、といった姿勢です。また、深く愁いに沈むことも多かつたようです。先の五四年総会で加藤先生は「いかに多種多様に見えましようとも、最後のギリギリのところではたゞ一つ：…」と述べておられました。

\*

ただ、現代社会では釈尊の時代にはあまり考えられなかつた問題も多くあります。たとえば、日本国憲法下では当たり前となつた男女同権について、経典には差別的と思える記述もときに見受けられ

ます。原子力をどう扱うべきか、仏典をひっくり返しても直接の答えはありません。

そもそも、仏教は時代とともに発展してきたのです。たとえば、釈尊が亡くなつて数百年後に大乗仏教の運動が興ります。さらに千年たつて、はるか日本で鎌倉仏教が登場します。釈尊という方は、自分の言葉を金科玉条のごとく守れ、とは教えなかつたように思ひます。だからこそ「自灯明、法灯明」（自らを灯とし、真理を抛り所にせよ）と遺言されたのです。

そう考えると、わが協会が目指すべき目標も見えてきます。ご出家にはご出家の役割があるわけですが、一方で宗門や寺院としての制約も多いはず。その点、そうした束縛がなく、釈尊の思想を自由に学ぶ場としての「在家」は悪くないのではありませんか。広く学界、宗門の先生たちもお招きし、釈尊ならばこの問題をどう扱われるか、とごいっしょに考えていきたいものです。

\*

「四つの信条」の第二項以降については、いづれ改めて書かせていただきます。

### 金子先生の「揮毫」

永尾雄一郎

(医師、一九二五年生まれ)

金子大栄先生の米寿記念講演は昭和四十三年五月三日、「普通の法・特殊の機」として京都・大谷大学講堂で挙行されました。そのあとでご自宅に伺い、記念として次のご揮毫をいただきました。「廻向義」と箱書きされてあります。

普通の法を特殊の機に受行す  
これを回向という

「受行(じゅぎょう)」という言葉は大経(無量寿経)や文類(もんるい、浄土文類聚鈔)の中にみられる言葉で、「受」は本願を受ける。「行」は念仏の行で、平たく言えば「拝む・賜わる・いただく」という下から上を仰ぐ姿勢を表します。当節風の上から下を踏まえる姿勢とは全く逆のあり方と申せましょう。

しかし「受行」だの「廻向」だの表現がどうも難しい。「先生、もう少し解り易くお教え戴けませ

んでしようか」とお願いして頂戴

したのが、**別掲**の「領解の詩」でした。「この詩をもって真宗の教えの領解として下さい」との添え書きと共にご返信戴けたのでした。この書をさっそく額装して書斎に掲げ、日夜拝読してはその日その日を送らせて戴いております。

師の教え、心に深く身につけて  
浄土願いつ 今日も生きなむ

蒼泉(筆者号)

\*

「領解の詩」

天上光隈なくて  
水面にうつる影ふかし

### 在家仏教協会 四つの信条

- 一、 釈尊の説法虚言ならずと信じていること。
- 二、 釈尊の説法の内容そのものは永遠の真理であるが、それを大衆に知らせる手段は、時と処と人に応じつねに新鮮でなければならぬと信じていること。
- 三、 呪術らしきものは一切排除すること。
- 四、 在家生活のまま仏教に生きようとしていること。

### 「いのち尊し」投稿規程

◇随想「仏教と私」(八百字以内)  
人生を振り返って仏教と出逢ったときの感動などをお書きください。  
◇コラム「この一冊」(六百字以内)  
感銘を受けた書籍を紹介してください。新刊だけでなく、思い出の本も歓迎します。著者名、出版社名、発行年を忘れずに。

原稿用紙またはメールに添付して、左記宛てにお送りください。住所、氏名、電話番号、できれば職業と年齢もお書きください。読みやすくするために、あるいは編集上の都合で、趣旨を変えない範囲で削ったり直したりする場合があります。採用文には薄謝をお送りします。また、不採用の原稿はお返ししませんのでコピーを手元に残してください。

\*

原稿の送り先は〒151-0064 東京都渋谷区上原3-32-16 在家仏教協会「いのち尊し」係。メールは [info@zaibukkyo.com](mailto:info@zaibukkyo.com)

### 在家仏教通信

### 第七十二回通常総会を開催しました

一般社団法人在家仏教協会は、六月十一日(土)渋谷区上原で、通常総会を開催しました。当日は十八名の会員が出席し(他に委任状出席二百三十八名)、報告事項「平成二十九年度事業計画及び収支予算に関する件」、決議事項の第一号議案「平成二十八年度事業報告並びに収支決算に関する件」、第二号議案「公益目的支出計画実施報告に関する件」、第三号議案

「理事及び監事の任期満了に伴う選任に関する件」について審議しました。

平成二十九年度事業計画において、六月より会員へは、月刊誌「在家佛教」に代わって、月刊誌「大法輪」が送られる。また、新しい会報「いのち尊し」が刊行され、会員や講演会出席者に配布される、との説明がありました。

任期満了に伴う役員改選があり、理事十四名(再任十三名、新任一名)、監事二名(再任二名)が選任されました。

新しい役員(任期二年)は左記のとおりです。

理事 奈良康明

(仏教学術振興会理事長)

理事 金光壽郎

(元NHKチーフディレクター)

理事 本多 弘之

(親鸞仏教センター所長)

理事 加藤 潔

(元みずほビジネスパートナー)

執行役員

理事 林 克之

(元協和発酵キリン経理部長)

理事 大内 裕

(協和発酵キリン常務執行役員)

理事 棚澤正純

(協和キリンプラス社長)

理事 上村隆利

(元協和発酵キリン総務部長)

理事 石原大道

(有限会社大法輪閣取締役社長)

監事 福屋浩三

(元協和メデックス監査役)

監事 武田伸策

(税理士)

顧問 松田 謙

(加藤記念バイオサイエンス振興財団理事長)

### 今秋の旅行会のお知らせ

良寛、親鸞、日蓮ゆかりの地を訪ねて新潟へ

在家仏教協会では二泊三日で良寛さん、親鸞聖人、日蓮聖人ゆかりの地を新潟に訪ね、法話を聞く旅を企画しました。参加者を募集します。今回は、全国良寛会会長の長谷川義明さんをお招きして講演会を開催するほか、親鸞聖人ゆかりの地では、協会にご縁をいただきました金子大栄師、曾我量深師のお孫さんより、ご案内をいただきます、その足跡を訪ねます。

\*

期日…十月二十四日(火)〜十月二十六日(木)

主な拝観先…良寛堂、国上寺、五合庵、法福寺、曾我平澤記念館、北方文化博物館、居多ヶ浜、ゑしの里記念館その他

宿泊先…十月二十四日(火)ホテルサンルート新潟、十月二十五日(水)岩室温泉ほてる大橋館の湯

集合…JR新潟駅新幹線改札口(十月二十四日十三時)  
解散…JR上越妙高駅新幹線改札口(十月二十六日十四時四十五分予定)

参加費用…七万二千三百円  
※ホテル・旅館は一部屋一名となっております。ご希望により二名一室も可能です。

募集人数…二十名(最小催行人員十五名)  
申込締切…八月三十一日(木)  
ただし満員になり次第締切りますのでお早めにお申込下さい。

お問合せ・申込先…株式会社JT B首都圏グループ旅行センター  
(東京都品川区上大崎2-24-9) アイケイビル3階 電話 03-5434-7591、FAX 03-5434-7595 担当…藤原) または協会事務局まで。